

特 定 事 業 者 排 出 量 削 減 報 告 書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市中京区河原町通二条南入一之船入町537-4									
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社 京都ホテル 代表取締役社長 平岩 孝一郎									
特定事業者の主たる業種	ホ テ ル 業									
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））									
計 画 期 間	平成 20 年 4 月 ～ 平成 23 年 3 月									
基 本 方 針	環境マネジメントシステムの導入並びに省エネルギー法に基づき使用量の前年対比1%の削減を目指す。									
推 進 体 制	社長直轄の社内「環境寛喜」に基づいて水道光熱使用量の増減について原因を追求し削減に繋がるような適切な情報を発信する。									
	環境マネジメントシステム名称									
	K E S ステップ1									
具 体 的 な 取 組 及 び 措 置 の 状 況	適用範囲									
	(株) 京都ホテル サイト2									
	取得年月日									
2001年10月1日										
具 体 的 な 取 組 及 び 措 置 の 状 況	年度	設備、対象、工程等	措 置 内 容							
	20年度	高効率空調機導入①	吸収式冷凍機(3台のうち1台)からターボ冷凍機へ変更及び冷水ポンプのインバーター化							
	21年度	高効率空調機導入②	吸収式冷凍機(2台のうち1台)からターボ冷凍機へ変更							
	22年度	コージェネレーションの検討	ガス料金高騰の影響による既存設備の将来見直し							
温室効果ガスの排出量等	排出区分		基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （20）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分		10,891.2 t	10,564.4 t	-3.0 %	9,708.4 t	-10.9 %			
	B 輸送車両排出区分		t	t	%	t	%			
	C その他排出区分		t	t	%	t	%			
	排出合計		10,891.2 t	10,564.4 t	-3.0 %	9,708.4 t	-10.9 %			
実績に対する自己評価		省エネルギー法に定められている年1%削減を目標としています。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
	ホテル及び事務所（京都ホテル・クラ・からすま京都ホテル・本社ビル）	二酸化炭素換算 （床面積）	0.1425 T-co2/m2	0.1382 T-co2/m2	-3.0 %	0.1270	-10.9 %			
		二酸化炭素換算			%		%			
		二酸化炭素換算			%		%			
実績に対する自己評価		吸収式冷凍機から電動ターボ冷凍機への移行により電力使用量は増加したが、ガス使用量が減少したことにより削減効果が大きく出ました。								
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分		目標年度（計画）				報告年度（実績）			
			取組量等		（二酸化炭素換算）		取組量等		（二酸化炭素換算）	
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	
	市内産の木材の利用	（利川量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	（利川量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（売電量）	kwh	（削減量）	t	（売電量）	kwh	（削減量）	t	
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t	
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t	
	削減量等合計				t				t	
	地球温暖化対策に資する社会貢献活動	廃棄物の分別並びに生ゴミの25%リサイクル、近隣周辺の清掃活動（ホテル・クラ周辺は月2回、からすま京都ホテル周辺は月1回）等を実施								
特 記 事 項	当社は1994年に竣工し、1996年から本格的にエネルギー削減について努力をしてきました。その結果、1996年を100とすると電気については、2007年までで、87.0%にまで削減しましたが、08年はターボ冷凍機を導入したことにより逆に前年対比5.9%の上昇となりました。一方ガスについては96年比08年には59.2%と大きく削減しています。なお、昨年度は冷凍機更新による恩恵を受け、目標年度の数値を大きく達成することが出来ました（年度ベースは1月～12月です。）また、現在も省エネルギー法による削減（年1%）を義務づけられており、継続して努力をしております。しかし、職業柄お客様にたいするサービスの低下は避けなければなりませんので、大変苦勞をしております。また07年4月より役員並びに部長クラスによる廃棄物削減について再検討する組織を設置しております。									

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のそれぞれの年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○○□□、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（製造品出荷額、延床面積、走行距離等）を記入してください。  
 5 「地球温暖化対策貢献量」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。  
 6 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。  
 7 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。

